



## 「言葉の力」…語彙力を付けよう

昨年の此の時期は、インフルエンザによる欠席者が多く、一部の学年において学年閉鎖を行いました。今年は、昨年11月からの「お茶うがい」の効果もあるのでしょうか？子どもたちは元気に登校し、始業開始からランニングや縄跳びに取り組み、来週の学習発表会に向け、その準備を進めています。

本年度も残り1か月余りとなり、学年のまとめの時期を迎えました。昨日の全校朝会では、子どもたちに「言葉の力」と題して、自分の考えや意見をわかりやすく相手に伝える力を付けるために、語彙力を付けることが必要で、その力を付けるのが読書であり、日々の音読であることを話しました。読書や音読を通して、たくさんの文字や文章に触れることができます。学校では子どもたちが読書に親しむよう、いろいろな機会を通して、工夫しながら取組をしていますが、限られた時間で、効率的に語彙力を付ける方法として、今学習している国語の教科書をしっかりと、繰り返して読むことを勧めました。そして、興味をもった文章や、気に入ったフレーズを書き抜いてノートにまとめるなどして、言葉を覚えていく。そのことを繰り返していく中で、言葉の力の基となる語彙力が身に付けていくものと考えます。また、教科書の文章を「真似る」ことも大事で、いろいろな表現の方法をどんどん真似てほしい、とも思っています。

最後に「真似る」ことに関わって、5年生が「伝記」を読んだ感想を書いていたので、そのことについても触れました。

### ○「伝記」の学習を終えて

5年生が国語「伝記を読んで、感想文を書こう」の単元で、興味をもった人物(豊臣秀吉、徳川家康、坂本龍馬、宮沢賢治、サリバン先生など)の伝記を選んで読み、人物の生き方について考え、自分の考えを感想文に書いていました。

#### 農民から武士に駆け上がった男「豊臣秀吉」

秀吉は、信長と出会い、最初は下足番をしていて信長のげたをふところに入れて温めていたので、気に入られました。ぼくだったら、げたをふところに入れて温めるという発想は出ないから賢いと思いました。……………

#### 日本を生まれかわらせた人「坂本龍馬」

アメリカから来た大きな「黒船」に大こんらんした日本の未来のために立ち上がった龍馬は、すごいと思いました。……………

伝記を読み、人物の生き方にふれることで、夢やあこがれをもつようになり、そこからその人の行為を見習ったり、その中から特に心に響いたことを日常生活に取り入れたりすることができ、そういう出会いができたらいいなあとと思います。

### ○給食集会において

全国学校給食週間中(1/24~1/30)の1月28日(火)に、保健体育委員会が中心となって、「給食集会」を開きました。委員会の子供たちが、給食の献立に関することや、給食で出された食材の回数などを「クイズ」形式で紹介しました。

また、栄養教諭の栗本先生からは、『食事のマナー』について、話していただきました。食事のマナーとして、食べる姿勢や箸の持ち方の指導があり、「マナーは、お互いに気持ちよく過ごすためにあるもの」とか、「体にとって良い食べ方があるということ」などの話を聞きながら、健康でよりよい食生活を送ることの大切さが分かりました。

この給食週間中の献立には、大村でとれる野菜や県内産の食品を使った郷土料理が多く入っていました。大村や長崎の自然や歴史を感じさせる献立で、長崎県や地元大村のよさを感じました。

### ○旭が丘小との交流学習

2月5日(水)、本校の6年生が旭が丘小へ出かけ、交流学習を行いました。本校の子どもたちは、旭が丘小の子どもたちと一緒に大村中学校へ進むこともあり、中学校への進学に対する不安を解消し、スムーズな人間関係を築くことができるよう大中校区の小学校と交流を図っています。

今回は、6年生4名が1クラスに入り、算数の学習や、次年度から必修化されるプログラミングの体験学習を行いました。

「最初は緊張したけど、話しかけてくれて、緊張がほぐれました。」「もうすぐ中学校へ入学するから、今のうちにちょっと友だちができてよかったです。」などの感想がありました。少人数の本校ですが、大集団の中でも、物怖じせず、自信をもって関わっていける子どもたちを学校生活の中で、培っていきたくて、こうした交流学習の度に思います。



おめでとう！

＜大村市子ども美術展＞

【書の部】  
【優良賞】  
【佳作】

3年 岩永 かのえ  
4年 中橋 賢弘

4年 奥田 颯太